

会 議 録

会議の名称	第12回茨木市こども育成支援会議
開催日時	平成26年11月25日(火) 午後6時30分～8時30分
開催場所	茨木市役所南館10階大会議室
出席委員	岡本委員、金山委員、木下委員、古賀委員、古座岩委員、敷知委員、城谷委員、 下田平委員、高山委員、田中委員、福田委員、前田委員、米田委員 (五十音順)
欠席委員	奥本委員、鳥居委員、平田委員、松藤委員、三角委員、宮武委員(五十音順)
事務局	佐藤こども育成部長、岡こども政策課長、戸田こども政策課参事、東井こども政策課長代理、平林子育て支援課長、中井保育幼稚園課長、島本学童保育課長
案件	議案審議 ○子ども・子育てワークショップ ■資料1_子ども・子育てワークショップ実施要領 ※前回会議配布資料
配布資料	資料1 前回会議のワークショップで出された意見 資料2 茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)構成案 第13回会議資料1 茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)素案 ※第1章・第2章 第13回会議資料2 茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)事業リスト

発 言 者	発 言 内 容
司 会 岡課長	<p>ご案内の時間となりましたので、こども育成支援会議を開催いたします。本日も大変ご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>開会にあたりまして、こども育成部長 佐藤からごあいさつを申し上げます。</p>
佐藤部長	<p>第12回茨木市こども育成支援会議の開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。</p> <p>本日は足元の悪い中、委員の皆様には、公私何かとご多用のところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>さて、本日のこども育成支援会議、前回に引き続きましてワークショップ形式で進めさせていただきたいと思います。前は3つのテーマに分かれていただき、テーマ毎に課題の抽出を行っていただきました。本日はその課題に対する解決策について、委員の皆様からご意見やアイデア、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ですが、これで開会のあいさつに代えさせていただきたいと思ひます。本日はどうかよろしくお願ひいたします。</p>
司 会 岡課長	<p>次に、本日会議にご出席いただひている委員の状況です。まず、ご欠席のご連絡をいただひておりますのが、宮武委員、松藤委員、鳥居委員、奥本委員、平田委員、三角委員であります。また、福田会長ですが交通渋滞ということで、半時間ほど遅れるというご連絡をいただひており、木下委員も少し遅れてお見えになるというご連絡をいただひております。いずれにしましても、半数以上の委員にご出席いただひておりますので、こども育成支援会議条例の規定によつて、会議は成立していることをご報告しておきます。なお、この後の進行につきましては、本来なら会長にお任せするところですが、先程ご報告いたしました通り、現在こちらに向かひていただひている途中ですので、急遽、副会長の前田委員にお願ひしたいと思ひます。前田委員、よろしくお願ひいたします。</p>
前田副会長	<p>皆様こんばんは。ただいまご指名をいただきました、前田でございます。</p> <p>本日の会議につきましては、前回の会議に引き続き3つのテーマに分かれていただひて、ワークショップ形式で議論を深めていただひたいと考えております。ワークショップの進め方につきましては、後程事務局より説明させていただきますが、ワークショップに入る前に、資料の説明をまず事務局からよろしくお願ひいたします。</p>
事務局 東井課長代理	<p>皆さんに事前に配布している資料と、本日お配りしている資料がございます。その確認からさせていただきます。まず、本日テーブルにそれぞれ配布させていただひておりますのが、第12回茨木市こども育成支援会議次第となります。それと、第13回会議資料2ということで、横置き茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)事業リストというものを本日配布させていただひております。あとワークショップで使ひますワークショップのアンケートと、自己紹介シートを本日配布させていただひております。事前に郵送で配布している資料が、資料1・前回のグループワークの中で皆さんから出していただきましたご意見を集約した横置き</p>

のプリントになります。それから資料2 茨木市次世代育成支援行動計画第3期計画書の構成案ですが、前回の会議で配布させていただいたもので、少し修正をしております。また内容は後程説明いたします。次に第13回会議資料1、次世代育成支援行動計画第3期計画素案、これらを皆様に配布しております。お手元にありますでしょうか。前回ワークショップで使いました、前回会議の資料1のワークショップの実施要領を皆さんお持ちになっていただいておりますでしょうか。大丈夫でしょうか。それらが本日配布している、お持ちいただく資料となります。なければ事務局にお申し出ください。大丈夫でしょうか。

それでは、資料の説明をさせていただきます。事前に配布しております、資料2・茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）計画書の構成案をまずご覧いただきたいと思います。前回会議で配布していましたが、前回の会議の資料から少し修正をしておりますので、修正した箇所のみ説明をさせていただきます。まず表面の第3章、前回、こどもを取り巻く環境ということで、こちらに掲載しておりました。ちょうど3列の真中が第3期計画の構成になります。裏面をめくっていただきまして、最後になります参考資料をご覧いただきたいと思います。参考資料の「2 基礎データ」として、こちらのほうへ移動し記載したいと思っております。また、「2 基礎データ」以外に参考資料の中で、「1 子ども・子育て新制度の全体像」と「3 会議関係資料等」を掲載することとしております。参考資料の上段、第7章「推進体制」について前回つけていたのですが、こちらは表面をめくっていただき、第1章の第3節「計画の期間と推進体制」の中で触れたいと考えており、こちらへ移動をしたいと思っております。なお、事前配布してあります第13回会議資料1・茨木市次世代育成支援行動計画第3期素案及び、本日お配りしました第13回会議資料2・茨木市次世代育成支援行動計画事業リストにつきましては、次回12月21日曜日開催予定の第13回こども育成支援会議で審議いただく予定としております。第13回会議資料1の茨木市次世代育成支援行動計画第3期素案は、第2章まで掲載しております。第3章以降につきましては、後日皆様のご自宅のほうに整い次第、郵送させていただく予定をしておりますので、次回の会議までにご覧いただき、次回会議当日に資料としてお持ちいただき、ご意見を頂戴したいと考えております。

次に、第13回会議資料2・茨木市次世代育成支援行動計画第3期事業リストの説明をさせていただきます。ご用意いただけますでしょうか。表紙1枚をめくっていただき、まず左側ですが、次世代育成支援行動計画後期計画の事業名と事業内容を掲載しております。その右側に次世代育成支援行動計画第3期策定のための事業リストとして、次の第3期計画に実施予定の事業名、事業内容を掲載しております。事業名の左横に、後期計画から次の第3期計画へどのように引き継ぐのかが分かるように、「継続事業」「質的充実」「量的充実」「質的量的充実」とそれぞれ記載し、新たに第3期計画から実施する事業は「新規事業」として掲載しております。

1 ページ最後の「妊婦歯科健康診査」事業をご覧いただきたいのですが、こちらは後期計画の事業名・事業内容が空白となっており、第3期計画で「継続事業」

	<p>としております。この場合は、後期計画策定時に事業実施として計画を当初して おりませんでした。その後の5年の間に事業実施を行い、第3期計画でも引き 続き実施する事業となりますので、後期計画の事業名・事業内容が空白となり、 第3期計画に事業名・事業内容が掲載され、「継続事業」という形で載せておりま す。次に4ページをご覧ください。人権・男女共生課の「子育てに関する相談」 のように、第3期計画から廃止する事業につきましては、事業名の横に「廃止」 と記載し、事業内容欄にその廃止の理由を記載しております。</p> <p>次に事業リストの右側に、こども育成支援会議での懸案事項、各団体等のヒア リングでの意見、課題を、関係する事業毎に掲載しております。意見、課題の右 側に各課の対応策と担当課名を掲載しております。その右側に出された意見、課 題に対して、次世代育成支援行動計画第3期の向こう5年間の事業展開の中で実 施する、または実施の方向で検討するには丸印、実施しない場合はバツ印、対象 外についてはハイフンを記載しております。今回の会議では、茨木市次世代育成 支援行動計画第3期素案の中で、この事業リストの内容も合わせてご意見をいた だく予定としておりますので、よろしくお願いいたします。資料の説明は以上で す。</p>
前田副会長	<p>ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がござ いましたらお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。</p> <p>それでは次に、第11回こども育成支援会議の会議録の確認についてお願いした いと思えます。事前に事務局から会議録案を送付させていただいたところ、特に 修正等のご意見はございませんでした。会議録について、何かご意見等がござ いましたらお願いいたします。いかがでしょうか。</p> <p>それでは、これを持ちまして第11回の会議録を確定させていただきたいと思 います。ありがとうございます。</p> <p>それでは、お手元の次第の議案審議に入らせていただきます。子ども・子育て ワークショップについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 岡課長	<p>前回ご案内していますように、今回は、前回のワークショップの後を受けての 引き続きの作業となりますが、今回はワークショップ実施要領の一番最後のペー ジに第2回目の流れが書いているかと思えます。このところを簡単に振り返りし て、早速始めていきたいと思えます。今日はお二方が初めてご参加いただいで いますが、詳しく説明しますと、時間がかかりますので、どういうことをやるのか だけ簡単に説明させていただきます。</p> <p>今回ワークショップに取り組んだのは、今までの大きな枠組の会議のスタイ ルの中では、なかなか意見が言い難いということがあろうかと思、小さな規模 でお互い顔が見える関係の中で、色々なご意見を遠慮なく出していただこうとい う思いで取り組んでおります。今回は2回目となります。前回同様、各テーブル には、それぞれこども育成部の課長が進行役としてついております。最後に各グ ループでお話しいただいたポイントをご報告いただく方は、是非委員さんの中で お一人お決めいただいて、ご報告いただきたいと思います。ワークショップ ですので、何か正解を求めて皆で作りに上げるということではなくて、今ある課題</p>

についてこういうことをしていったらいいんじゃないかということ、自由に発言していただくのと、私達が今後取り組んでいく事業なり施策のヒントをいただくということで進めております。前回、3つの課題について現状と言いますか、課題と言いますか、問題意識を色々あげていただきました。一部、解決策に繋がるようなご提案もいただいております。その一覧は、今日既にお配りしました資料でそれぞれ模造紙に書き上げていただいた内容を列記したものをお渡ししておりますので、ご確認いただければと思います。今日は、その内容を確認していただきながら、新たな視点で、新たな視点と言いますのは、今回メンバーも一部入れ替わっています。何名かは違うグループから移ってきていただいておりますので、前回のことについて、もう一度振り返りいただくと共に、前の時には気付かなかった視点であるとか考え方が、もしあれば振り返っていただければ結構ですし、それらを踏まえて今後、とりあえずこの第3期計画は5年間の計画となっておりますので、この5年の間に取組んでいこう、何かできることはないかなということ、皆さんで出し合っていただけたらと思っています。皆さんでと申しましたのは、第3期の計画は基本的にサービスを提供する行政側の計画になって参りますが、今回皆さんにご意見を頂戴したいのは、もちろん行政としてこういうことをやっていくべきだということもあります。それに加えて地域として、お住まいの市民としてどんなことが取り組めるのか、或いはサービス提供する事業者としてどんなことができるのか、ご自分がその立場でなくても市民としてこういうことを期待したいですねと、事業をなさっている方についてはこういうところを頑張っ欲しいですねというようなことも含めてご意見をいただければ有り難いです。まず自己紹介から入っていただきますが、テーブルにA4の横長で自己紹介のシートを置いてあります。冒頭から謝らないといけないのですが、お名前を書く欄はありますが、下にお仕事と書いています。特にお仕事ではなくて、日頃ご家庭で子育てをされている方もおられますので、特に仕事でなくても結構です。もし良ければ、子ども達との関わりですね、今仕事上である方もあるでしょうし、そうでないことで子どもの成長なり発達なり、子育て、健全育成といったところで、関わりを持たれている方があると思います。そのあたりのことをお書きいただければ、仕事ということはちょっと無視していただき、今ご自分がどういうふうに子ども達と関わっているのかをご紹介いただければ有り難いです。シートの出来が悪くて申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

それを4～5分で行っていただきます。実際のグループワークについて繰り返しになりますが、1回目の中身を確認しながら、今回はどういう事業・施策をしていったらいいのかなというようなことを出し合ってください。前も言いましたように、表現は悪いですが、質より量という感じをお願いしたいと思います。思い付くままに色々書いていただければと思います。それをまず30分程度。時間の関係は、私のほうで、「あと5分ぐらいです」というようなことを申し上げますので、各進行役はそういうことを気にしながら、そのあたりのご案内・誘導をお願いいたします。とりあえず色々出していただいたものを、20分程かけてグループ分けしてもらいます。先程申しましたように、市・行政がやるべきこと、市民が携わ

	<p>るべきこと、或いは事業者が関わるべきことという大きく3つのグループ分けをしていただけたらと思います。必要があれば、例えば行政がすべきことの中でも、ある程度グループ分けをして、更に小グループを作っていただくということも歓迎します。そういう方法もあるかと思いますが、そこはそれぞれの班の状況で柔軟に対応していただければと思っています。それを20分ぐらい。最後、発表者の方が内容を整理する時間を取りたいと思いますので、皆さんで確認なり今回のポイントというところを指摘していただき、発表に臨んでいただくというふうにしたいと思います。それが合わせて55分程度、1時間程度になるかなと思います。あと、それぞれの班で代表の方にご報告をいただきます。前はなかったですが、今回自己紹介のシートと一緒にアンケート用紙を置いていますので、設問に答えていただくと共に、自由意見欄もありますので、こういった取組みについてのご感想であるとか、今後のこの会議の運営のことなどをご記入をいただければと思います。それが終わりましたら、一旦会長のほうにお渡しして講評をいただければ有り難いと思います。そんな感じで進めていきたいと思っています。今7時6分ぐらい前です。だいたい7時ぐらいまで自己紹介ということで、7時から順次ワークショップを進めていきたいと思っています。それでは、それぞれの班の進行役の方よろしく願いいたします。</p>
	(グループワーク)
	(グループ発表)
<p>グループA (敷知委員)</p>	<p>それでは発表させていただきます。僕達のグループは、若者への支援ということで話をしました。最初色々話し、書く前に話したことが、根本は日本の社会を変えていかないとアカンという話だったのですが、最初奨学金をもっと欧米並みにと言うか、大学へ行きたい、勉強したい子が学費の面でそれができなくなるというのが可哀想と言うか、それをまず何とかしてあげないといけないということで話をずっとしていきましたら、地域でも色々なコミュニティに若者が入りたいとしても、そこは年を取ってリタイヤした人がふるさと祭りなど、そういうところに出てきて、なかなか若者が地域の繋がりを持ってない状況もあります。それがひいては、大学を出て、社会に出ても結局長続きしない。それか失敗して辞めちゃうというのが現実にあります。そんな話をしていると、それは中学校の部活もそうじゃないかと。中学校で一回部活に入りますと、しがらみと言いますか辞めることを言いだし難い。一回辞めると落ちこぼれと言うか、「何やあいつは」というような目で見られるので、何か日本の社会って、結局単一的な生き方じゃないと、多様化して自由に生きることができない社会になってしまっているんじゃないか。そういうことを最初ずっと喋っていきまして、紙に書いてまとめて、行政でできること、事業者でできること、地域でできることでグループ化しました。ひとつ学校というのが分類にすごくはまる場所が多かったので、学校も付け足しまして分類しました。結局、お金があって生活できて、生活に困らないのであれば、若者がそれで幸せなのかと言うと、いやそうじゃなくて、やっぱり何かコミュニティで繋がりを持って、社会の中で生きていくことを支援してあげないと、結局お金だけの面では社会で生きていけない。それを小さい時から、小学校・幼</p>

	<p>稚園ぐらいの時から学校でそういう教育をして、行政のほうではお金の面であったり、社会的な仕組みであったりを支援してもらおう。民間の事業者でできることというところでは、学歴にこだわった採用をすることではなくて、やっぱり本人、また途中で、どこかで仕事を1年ぐらいで辞めてきた人でも、その人を公平な目で見れるような採用の仕方をとっていかないと、一回失敗したらそれでその人が再就職できないようなことではだめだということで、事業者に対してのお願い。それと地域では、小さい子どもがいる家庭では、なかなか隣近所と付き合いができていなかったりということもあるので、地域での関わりを協力していくということで、4つのグループにまとめました。以上です。</p>
事務局 岡課長	<p>今A班から報告をいただきましたが、もうちょっと説明などをというところがありましたら、この場でお聞きいただきたいと思います。よろしいですか。はい。では、B班お願いします。</p>
グループB (金山委員)	<p>Bグループの金山です。Bグループは、会社、事業所の立場の方と、民生児童委員、子どもさん専用の民生委員さんのほかに、学校支援員だとか教育現場に関わる方、放課後子ども教室に関わられている方ということで、色々な立場の、行政の平林課長も虐待、発達支援等、色々なことをご存知の方で議論が活発にできました。</p> <p>私たちの班は、情報提供のあり方を考えるということでしたが、前回の議論を踏まえて、半分は初めての参加でしたので、まず情報提供の捉えなおしというところからスタートしました。本来であれば、子育て支援に関する情報をどう提供するのかというところと言うと、情報を求めている人が情報にたどりつけるようにいかに分かりやすくするのかというところが、よく議論されているところだとは思いますが、前回のまとめの中でも、もっと情報発信の仕方、テレビであったり携帯であったり、多様な手段があるのではないかとということもありました。一番最初に言った情報の捉えなおしの中で、情報を求めている人というのは、ある程度困り感があって、困っているから情報を求めている、しかも情報がある程度収集する能力があるであろうということ、分かりにくかったり、色々な困難があったとしても、ある程度情報にはたどりつける人が多いのではないかとすることで、その人達はそんなに手立てとしては、強いて言うと情報の見やすい整理などは必要ではあるけれども、そこはまあまあいけるであろうということでは終わりました。むしろ情報に繋がって欲しい人というのは、ワークショップの実施要領の中にもありました相談の手が届かない人達。情報が届かない、入手できない人というのは、どんな人なのかと言うと、情報を求めてない人です。困り感がない人ということが、いわゆる相談の手が届かない人とは考えられないだろうかということ、困り感のない人で本当は情報が必要なのに関わらず、情報を必要としていない人、イメージしやすいのは虐待の親御さんなんかはそういう中に入るんだろうと思います。そういう人にどう情報提供していったらいいのかということ。もうひとつは情報が届かない、入手できない人をどんなふうにか考えるのかと言いますと、情報をもらったとしても咀嚼ができなかったり解釈ができなかったりとか、使いこなせない、その情報を自分の問題にうまく落とし込んで</p>

解決ができない人と捉えなおしを行いました。その上で、行政と事業所、市民のそれぞれの立場からできることは何だろうかということをお話ししました。まず相談の手が届かない、いわゆる困り感のない人達はどうしたらいいのだろうかということで、その方達、そういう対象の方達については、事業所というところ、事業所が何なのかという話もすごく困りながら考えていたのですが、会社のような事業所よりも、むしろ保育園であったり教育機関であったり、子ども関係に携わる関係機関であろうというところに落ち着きまして、そういう情報を提供するのには保育分野であれば、未就学期であれば保育分野のソーシャルワーカー。今制度としてはありませんが、保育園に立場を置いてソーシャルワーク、ソーシャルワークというのは相談援助を行う福祉の専門職ですが、実は学童期と言って小学校、中学校の分野では、既にスクールソーシャルワーカーと言って、学校にそういう相談援助の人が入って支援していくという取組が行われていて、困っていない人にもアウトリーチと言って、その人自らが近づいてきて、働きかけをする人がいるのですが、そういうのが茨木の場合は、中学校にしかスクールソーシャルワーカーがいないので、小学校にもあったらいいねという話になりました。保育分野には、全国的に制度がありませんので、保育園にも、今は巡回相談で心理の1回だけ、単発型の支援は入っていますが、そういう情報提供というところがないので、アウトリーチ型の事業所を主体にした展開をしてはどうかということになりました。そういうことをしようと思うと、行政は制度設計というところが必要になるでしょうし、事業所だけでできるかと言うとそうではないので、実際のところはやっぱり市民と言うと、特に子育て支援の関係者、民生委員を中心とした子育て支援の関係者が市民の立場からサポートしていく必要があるということになりました。

情報を上手く使いこなせないと言うか咀嚼できない、なかなか理解が難しいという人達はどうかというところでは、むしろ行政が主体でやっていくほうがいいんじゃないかという話になり、前回の資料のまとめにもありましたように、たらい回しにされてそのうち相談するのを諦めてしまうとか、情報を求めるのを諦めてしまう人もいますので、高齢者にはよくあるのですが、ワンストップサービスという総合窓口があってもいいんじゃないかと。ただ総合窓口があっただけでは不十分で、そこに問題が上手く解決できない、情報を上手く使いこなせない人のためには、やはりここでもソーシャルワークサービスが要るのではないかと。パーソナルサポートというのが今ありますが、個別的にもやはり問題解決のところにも関わっていったほうがいいんじゃないかなという話になりました。そうすると、行政だけでは解決しきれないので、困っておられる方がどこか事業所に繋がっていけば、振り分けをして事業所もその後のフォローアップをしていったり、じゃあ市民はどうすればいいのかということになると、困っている人にこういう窓口があるよということで教えて、繋ぐという役割ができるんじゃないかなという話になりました。以上です。

事務局 岡課長	よく理解できたかと思うのですが、よろしいでしょうか。Bグループの皆さんありがとうございました。
------------	---

グループC
(木下委員)

何故、少子化なのにおせっかいか、ということをご説明させていただきたい。

前回は少子化対策のところ、結婚観みたいなのを変えていかないと、結婚という形をとって子どもが生まれて、伝統的な方法で結婚するにはどうしたらいいかみたいな話を最初に始めたのですが、たくさんあるよねと。どうするんだどうするんだと、問題はたくさん出てくる。もう鬼のように出てくる。じゃあどうするんだということになった時に、その問題を解決するのは誰がするんだという話がないと、問題ばかりあげつらっても、最終的には国がやれとか、政府が悪いとかいう話になっちゃうので、じゃあ僕らの手の中でできることをひとつずつやらないと、いつまでたってもこの問題は解決できないということで、考えました。じゃあまず、何ができるのか。子育てや家庭を持つこと、結婚に対することというのは、ネガティブなイメージが多いよねというのが前回の話の中でもあったのですが、でも嫌なこともクリアしていかないと、嫌なことやったけど実は楽しかったみたいなことってたくさん皆さんの経験値の中であるんだけど、嫌なことを一歩踏み出すタイミングってなかなか難しいよねと。嫌なことを人には勧めにくいし、嫌だなと思って勧めるほうも嫌だよみたいなのところもある。やっぱりそういう時には、おせっかい。おせっかいおばちゃんとかおせっかいおじちゃん存在って重要だと。養成講座も作ろうかみたいな話も盛り上がったのですが、例えば、うちのグループの中には3世帯同居されている方がいらっしゃる。非常に楽しく3世帯で暮らしていると。こういうことをもっと発信していくと、3世帯で暮らすことが楽しいと思って、じゃあ一緒に暮らしていこうかと。そこは旦那さんが婿に入ってきてという感じなのですが、ライフスタイルが変わることによって、子どもをもう一人持とうかみたいな考え方になったりとか、色々な発信をしていく。こんなライフスタイルどうですかみたいな発信をしていくのも、やっぱり誰かが発信しないといけない。それは行政が発信するではなくて、おせっかいおばちゃん、おせっかいおじちゃんが発信するという形が取れたらいいんじゃないか。おせっかいおばちゃん、おせっかいおじちゃんって、矢面に立ちやすい。「またあのおばちゃんが言っている。うるさいなあ。本当もういつも嫌。あの人ばかりごちゃごちゃごちゃごちゃうるさい。」とか言われると、おせっかいおばちゃんはへこむんですね。そのへこんだおせっかいおばちゃん達をサポートする体制が、やっぱり必要になる。おせっかいが必要なことは分かっている。でも、おせっかいを継続することは難しい。継続するために何を使うか。いい人材がいるじゃないですか。8,000人もいますよ、学生が。この学生8,000人をおせっかいサポーターとして養成しようと。地域の中にそんな学生達が入り込んでいくような企画や仕組みを作っていくと、大学と連携をして、それによって世代交流が生まれ、その学生達がそういった活動の中で結婚して子どもを作れば、少子化対策ではないのかと。学生と連携して地域づくりのイベントや学生ボランティアに手伝ってもらおうと。これからも、課題はまだたくさんあるのですが、この前も茨木で非常に悲しい事件が、3歳の子どもの事件がありました。やはりあれも、誰か一声かけられればという思いは、非常に皆さん強く持ったんじゃないかと思います。おせっかいと言われちゃうかもしれないけれど、でも、おせっ

	<p>かいをすれば助けられるかもしれません。やっぱり一声掛ける、先ほどアウトリーチとおっしゃっていましたが、こちらから寄っていくという仕組みは、寄る側のストレスがかかるのですが、それを支える仕組みというのも非常に重要だなと。そういったことから、結婚生活は楽しいよ、人生って楽しいよと伝えていく、ということ伝えていくおせっかいというのも必要ではないかと。以上です。</p>
事務局 岡課長	<p>ありがとうございました。若者支援のことも含めてのことかなというふうに拝聴しました。今のお話をお聞きになって、もうちょっとここはどうか、今回の場合はこの意見が良いとか悪いとかではなく、分かり難いというところがあればご質問いただければと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。はい、C班の皆さんありがとうございました。</p> <p>そうしましたら、最後会長にグループワークをご覧いただいて、発表を聞いていただいた、ご講評をお願いしたいと思います。</p>
福田会長	<p>今日は遅れて申し訳ありませんでした。まさかこんな喋り難い感じに自分で状況を設定してしまうとは。交通事情で遅れて申し訳ありませんでした。</p> <p>3つのグループのお話を、とても楽しいなと思いながら聞いていたのですが、ひとつひとつ私の感想を述べさせていただきたいなと思います。</p> <p>ひとつ目の若者支援について、やっぱり日本の社会を変えていく必要あるよなというところで、もしかしたら3つのグループそれぞれに共通する部分なんじゃないかなと思います。少子化のところとも結構関わってくる部分なのですが、日本の社会を変えるというのを我々がこの会議で言うにはちょっと大きな話で、なかなか難しいところではあります。結構、日本全体で少子化というデータはずっと出てきています。それをそれぞれの市町村毎に見ていくと、実は少子化ではない町というのは結構ある。そういった意味から言うと、社会を変えていくというのはなかなか難しいことですが、もしかしたら茨木市から何か新しい社会の取組、そういったものを発信していくことができるんじゃないかなと、私は思っています。国全体となると、なかなか見えないところなのですが、ひとつひとつの市町村というものが本気になれば、できることが多分きつとあるんだろうなと思って、そういった意味で言うと、説明を聞きながら、「なるほど、なるほど」と思ったのが、日本の色々な仕組みがどこかで失敗すると先が継げないような状況になっているものって多いのかなと。特にそれが中学生ぐらいから始まっているのではないのかという話があったと思います。例えば中学校の部活動が上手いかなければ、なかなかその先、どこかでリカバリーするのが難しいとか、それから仕事のことでもそうですよね。就職活動が一回上手いかなかったら、なかなか元のラインに戻っていくのが難しい。そういった部分ってきつとあるのかなと思います。多分、事業者、仕事についてはどうかという部分については、もしかしたら岡本委員が色々情報をお持ちなんじゃないかなと思って、後程実感があれば補足してもらえればと思いますが、このあたりは事業者のほうもきつと気付いてる部分なんだろうと思います。ただここについても、ここで何とかしてくれと言ってもなかなかどうにもならないところだろうと思うのですが、ひとつ私が思ったのは、学校というのは結構重要だなという話で、私も同様の感想を持ってい</p>

ます。学校については、今回生活困窮者の支援であるとか、子どもの貧困の問題といった時に、学校をひとつのプラットフォームに見立てて、そこを中心に子どもを支援していく必要があるのではないかという議論が国のほうでもされていますし、私は大阪府の委員でもありますが、大阪府のほうで全く同じような形で学校をプラットフォームに見立てて、そこを中心に子どもを支えていく、そういう仕組みを、要するに教育だけで学校を見ないということなんだと思います。そういったことをやっていこうじゃないかという話ですので、そこには若者の支援という点で、学校にこれからやはりまだまだ期待したいなということだろうと思います。そこに何を期待するのかというところですが、ここはやはり地域のほうから声をあげていくことって色々できるんだろうと思います。私、実は何度かお話しさせてもらっているかと思うのですが、1年カナダで生活していました。日本と社会の状況が大きく違います。カナダでやっていることが何でも良いこととは思わないのですが、例えば先程の部活動の話で言いますと、カナダではだいたい複数の競技をするのが普通なんです。何曜日は、例えば向こうだとホッケーとかが結構人気なんです。それから日本だったら大学生ぐらいからしかやらない、ラクロス。これはカナダ発祥のスポーツです。今日はラクロスの日とか、今日はホッケーの日とか、今日はサッカーの日とかいうふうに、一人の子どもが色々な競技をします。それは、曜日で違う時もありますし、季節で違うこともあります。でも何となく日本の学校で複数の部活動って、結構なさそうな話です。多分そうやって、もしかしたら子どもというのは自分の適性を見つけていく時期なのかもしれませんが、何となく早いうちからひとつに絞らなくてはいけないような状況にあるのが、今の日本の社会のあり様のような気がしました、話を聞きながら。何かそれは、就職のことにも繋がっていく。若者をどう支援していくのか、将来にどんな夢を抱くのかといった時に、多様な経験というのはきっと必要なんだろうと思いますが、それを作っていく土台というものは、もしかしたら市町村でもできることがあるんじゃないかなというふうに思いながら、お話を聞かせていただきました。

それからBグループですが、情報提供のあり方ですね。金山委員からの説明でしたが、多分普段されているお仕事にも関わりながらのお話だったと思いますので、なんとなく私も社会福祉の教育研究をしている者からすると、話が聞きやすかったし、「そうだ、そうだ」と思う部分もあったのですが、それをどう社会に、もしかしたら行政にと言ってもいいのかもしれませんが、理解してもらうのかなということなんです。多分、今日ここに来てくださっている行政の職員の皆さんというのは、ほとんど金山さんの意見を聞いて、「なるほど、なるほど」と思ってくれたと思うのですが、じゃあどう必要性を訴えかけていくのか。例えば、結局これをやったらこうなるという根拠と言いますか、エビデンスと言いますが、そういったものが必要なんです。だからソーシャルワーカーが増えたらどうなるのか。相談をしてくれる人が増えたらどうなっていくの、みたいところで結構福祉の世界はだんだん後退していき、後退していくと言うか、なかなかそこに反論するのが難しいんです。だから例えば国レベルで言うと、小学校の1クラスの定

員を何人にするのかみたいな話とも近いと思うんですよ。5人ぐらい増やしたって変わらないんじゃないのみたいな時に、その5人はすごく重要なんだというエビデンスを出すのって、そんなに簡単なことではないんです。そんな気がしながら聞いていました。情報提供のあり方で、前回の会議の時に、委員の中で「この冊子よくできてるな」みたいな話があったんです。情報提供がひとつの冊子になっているんです。これはよくできている、茨木市が作っている子育てハンドブック、相当クオリティの高いものなんだろうと思うのですが、多分お話にあった困り感のない人、情報を使いこなせない人達は、なかなかそれを手に取るとか開くとかということが難しい。そういう状況にあるんだろうと思います。そういったところには、困っている人とその困り感を手助けしてくれるサービスをどう繋ぐのかということですね。やっぱりその間に繋いでくれる人、繋ぐサービスというものが要ということが、はっきりしたんじゃないかなと思います。今後、新制度でも新たな仕組みができますので、そこにも大きな期待をしたいというふうに思います。また福祉分野では、最近よく言われるようになった、ワンストップサービスです。これも色々なところで色々な情報があるんだけど、全てを理解している人がいない。なので、必要に合わせて「このことはあっちだね、このことはあっちだね」と言っているうちに、相談に行きたい人が、もしくは情報を必要とする人が疲れてしまう。もしくはそれから先にいこうとしなくなってしまう。そういったことってたくさんあると思いますので、今後こういったワンストップサービスは当然必要になっていくのだろうと思いますし、情報提供のあり方のグループで、もうひとつ更に踏み込んで、パーソナルソーシャルサービスの話しをしてくれました。具体的な情報提供をするだけじゃなくて、それに合わせて支援が必要だと。そういったことは、きっとあるんだろうなというふうに思いました。実はさっき、木下委員が少しお話ししてくれた、だれかが声をかけてくれたら、こんな事件は起こらなかったんじゃないかなというところは、もしかしたらこのパーソナルソーシャルサービスの部分にも繋がってくる。そういった話しではないかというふうに思いましたので、提供すべき情報は既にまとめられている、そこをどう結びつけるのかがBグループの大きな課題だったんだろうというふうに思います。スクールソーシャルワーカーは、中学校だけじゃなく小学校にも要るよねと。それから実は、保育分野も幼稚園でも、相談を受け付ける人を、一定の研修を積んで、結構、保育所・幼稚園には置いています。実はそうなんです。ただ、国の制度として作られているものではありませんし、まだまだ認知度がもしかしたら少ないのかもしれない。身近な保育所・幼稚園に行くと、多分ほとんど相談してくれる状況にあると思いますが、なかなかそこを利用していない人が、そこで相談にのってもらえるという、なかなかそこが今のところまだまだ情報としてない、もしくはそこを越えていくのが難しい、そういう状況があるのかなと思いますので、是非委員の皆さん方にはそういうことがあるんだということを含めて、知っておいていただければなというふうに思います。

最後Cグループ、少子化に歯止めと、これはまた大きな課題で、おせっかいでというところだったのですが、当然皆さん方もご存知の通り、日本の社会という

のは今のままですと合計特殊出生率が少々上がったとしても、人口は減っていきます。なので、どんどん子どもは減っていく傾向です。そういった中で、じゃあどうやって歯止めをかけていくのかということですが、例えば3世代同居の話であるとか、結婚は楽しいよみたいな話があったように、やはりある程度のモデルを示していく必要はあるのかなと思います。じゃあこれから先、3世代同居が進むのかと言うと、それもまた難しいのかなというふうな気がしますので、そこをどうクリアしていくのか。私、おせっかいの話をずっと聞きながら、何なのかなと思ったのは、やっぱり人と人がどう繋がっていくのか、これは結婚する若者についてもそうです。結婚までいなくても、恋愛でもそうですが、人と人が上手く結び付いていくというのが、何となく難しい状況になっていて、そこをどう結び付けていくのか。そこに対する回答が一体どこにあるのか。それは多分代表としては、おじちゃん、おばちゃんという話がありましたが、やはりどこかの誰かではなくて、地域でそういった問題を考えていく必要があるのかなというお話だったので、私もきっとそれについては、その通りなんだろうと思いました。

Aグループ、Bグループ、Cグループそれぞれの問題を考えていく時に、我々に必要なことというのは、やっぱり子どもや子育ての問題が、私のことなんだということをして全ての人が思わなきゃダメです。こうやって何かの会議に出てきている人であるとか、役についているとか、そういった人達が思うだけではなくて、それぞれの人が子どもの成長のこと、もしくはこれからの日本の社会のことを私の問題として捉えた時に、何ができるのかなと。そういった私のこととして、今我々が話をしている問題をどうやったら解決できるのだろうか、みたいなことを考えながら心を落ち着かせておりました。ちょっと遅れて来たので、心穏やかではなかったのですが、皆さん方が議論している姿を見ていますと、本当に何と言うんでしょうか、楽しそうにと言ったらあれでしょうか、実のある議論が重ねられているのを見せていただきながら、私もだんだん落ち着いて、どんなコメントしようかなと考える余裕が出てきたわけです。私が最後思ったのは、人と人の繋がりをどうつくっていくのか。そのこと自体を自分のこととしてどう捉えるのか。そういったことがひとつ社会の中で考えられていくようになると、良い社会、良い茨木市になっていくんじゃないかなという気がした次第です。多分大きな課題は、ここでの議論をどう計画の中に盛り込んでいくのかです。結構、実は難しいことになってくるのかなと思いますが、計画というのは、作ったら終りではなくて、それを回していくわけです。それは行政の役割もありますが、地域にいる我々、皆さん方の役割は大きいわけですから、どう計画に入れていくのかということだけではなくて、それぞれの皆さん方の地域での活動の中に、きっと生かされてくるんじゃないかなと思ひまして、前回・今回と良い議論ができたんじゃないかと思ひます。

事務局
岡課長

ありがとうございます。日頃、司会進行ということで、ご自分の思いをなかなか述べていただけなくて心苦しかったのですが、今日は一部でも解消していただけたと思います。ありがとうございます。予定を回っております。まだ、色々話し足りないというお声が聞こえていましたが、また機会を見つけてこうい

	<p>取組をしてみたいと思います。もう既に書き始めている方もありますが、アンケートに、ここで述べきれなかった思いもそこへ書いていただきながら、仕上げていただきたいと思います。</p>
福田会長	<p>それでは最後になりますが、次回の会議について事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局 東井課長代理	<p>次回の会議は先程も申しましたように、12月21日日曜日朝9時30分から市役所の南館8階中会議室で行います。案件につきましては、本日配布しています第3期計画の素案と、事業リストについて皆さんからご意見をいただいて進めてまいりたいと考えております。本日、会議の案内と出欠表を配布していますので、お帰りの際、もしくはご自宅に帰ってから12月5日金曜日までにFAX等でお返事をご返信いただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。以上です。</p> <p>すみません、最後になります。お願いしておりますアンケートですが、ご記入後、テーブルに置いたままお帰りください。よろしく願いします。ありがとうございました。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。それでは、本日は以上となります。どうぞアンケートに記入いただいて、お帰りいただければと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。次回もどうぞよろしくをお願いいたします。</p>